

日本の原子力受容について

『核論』から

- ・ 武田謙・ジャーナリスト・評論家
東京大学先端科学技術研究センター特任教授
2004年10月5日 柏崎

日本の原子力技術受容について

- ・ 社会史・文化史をフィールドとするジャーナリズムの仕事としての『核論』（勁草書房 2002）
- ・ 科学技術（原子力）をいかに社会が受容（拒絶）したか→科学技術（原子力）に対する大衆的な価値観、イメージ形成の変遷を調査する必要性。
- ・ 「民主主義」政権においては科学技術の大衆的な受容形態の如何が当然、政策決定にも影響し、科学技術社会の未来をも決定する。
- ・ 「科学技術としての原子力」だけでなく、「社会の中の原子力」「文化としての原子力」の正しい把握の必要。

日本の原子力技術受容について

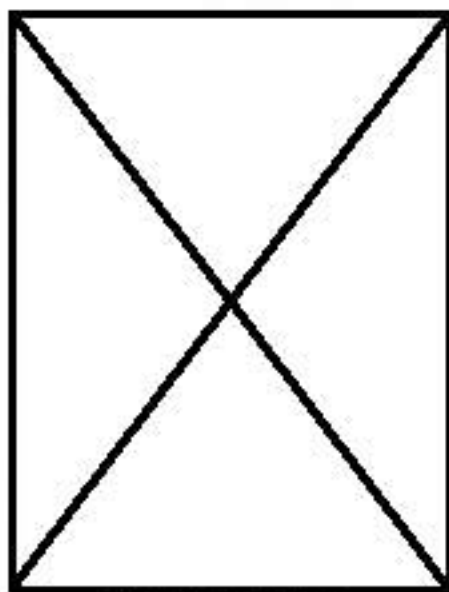
- ・ 本日の議論内容
- ・ 原子力技術受容の初期状況を、文化史・社会史の手法で回顧する。
- ・ その作業を踏まえて、科学技術に向き合う姿勢を再考してみる。

日本の原子力技術受容の初期状況

- ・ 原子力技術受容の初期において広く影響力を持った大衆的文化、作品にいかに原子力が描かれているか。
- ・ 手塚治虫SF三部作『ロストワールド』『メトロポリス』『来るべき世界』
- ・ 冷戦構造への悲観的な評価。核兵器としての原子力利用。

日本の原子力技術受容の初期状況

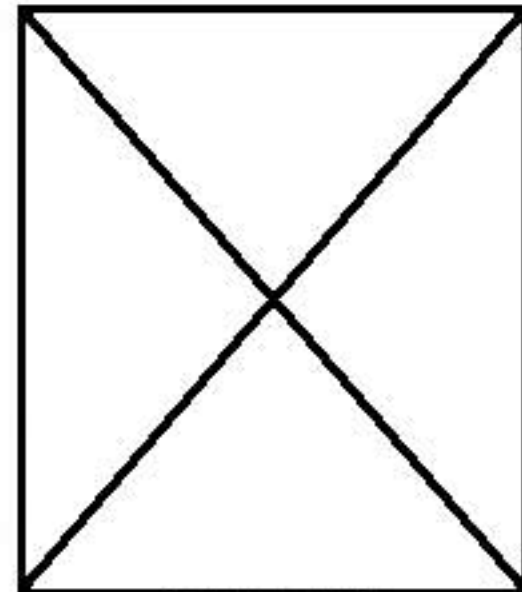
- ・ 『アトム大陸』から『アトム大使』（『少年』1951）へ。



著作権の関係上
掲載致しません。

日本の原子力技術受容の初期状況

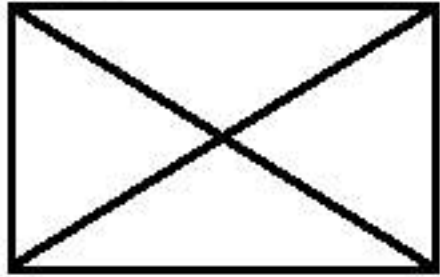
- ・ 鏡像関係。宇宙人と地球人が一対一に対応。
- ・ 相似と差異
 - 1：宇宙人の方が耳が大きい。
 - 2：宇宙人は肉食をしない（無垢な存在）



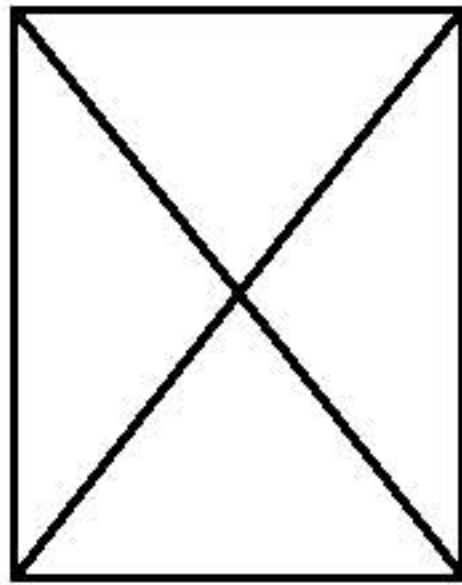
著作権の関係上
掲載致しません。

日本の原子力技術受容の初期状況

3：地球人の天馬博士は死んだ息子の身代わりになるヒューマノイドのロボットを作ったが、宇宙人の天馬博士は細胞収縮液を作った。



著作権の関係上掲載致しません。



著作権の関係上掲載致しません。

日本の原子力技術受容の初期状況

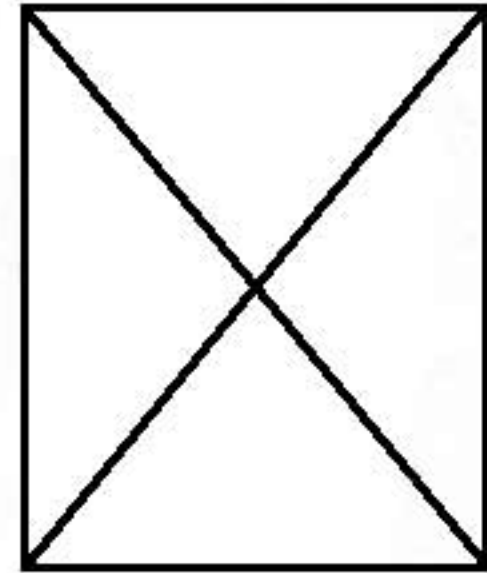
- ・ 原子力への言及はない（が、アトムなどのエネルギー源はおそらく原子力？）。
- ・ 原子力利用技術だけでなく、科学技術の両義性を、鏡像関係をなす構造の物語の中で描いてゆく。
- ・ 科学技術の「善用」としてのアトムと、「悪用」としての細胞収縮液。

日本の原子力技術受容の初期状況

- ・ 『アトム大陸』『アトム大使』に一貫して手塚には歴史的、社会的情勢の困難の自覚があった。
- ・ 人間と、人間と（似ていながら）非なる者（アトムの物語の場合はヒューマノイドロボット）の共生の困難→後の『鉄腕アトム』シリーズや他の手塚作品に繋がる問題意識。
- ・ 「差別・排除・迫害する種としての人間」という理解。
- ・ しかし「罪にまみれた人間」という認識を持ちつつも、科学を悪用も善用もし得るものとして、それをどう用いるかの重要性を示した。c f. 「核兵器の思想化を怠ってしまった（丸山真男『語りつく戦後史』）」

日本の原子力技術受容の初期状況

- ・ 『ゴジラ』
- ・ 1954年、東宝のプロデューサーだった田中友幸がインドネシアからの帰路、第五福竜丸被爆事件に着想を得て水爆実験により巨大化した生物の物語を思いつく。



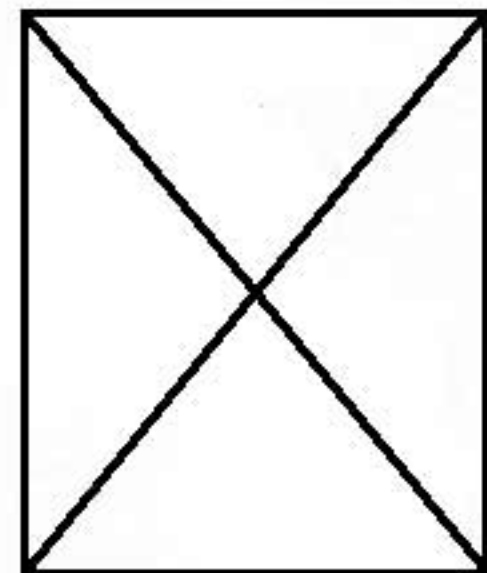
著作権の関係上掲載致しません。

日本の原子力技術受容の初期状況

- ・ 蘇る過去の戦争の記憶。来るべき戦争の恐怖。
- ・ 川本三郎「ゴジラはまた起こるかもしれない戦争への不安と、かつてあった戦争の記憶の二つに挟撃された」一種の「戦間映画」である。
- ・ 瓦礫の山となった東京を逃げまどう女性「あたしは長崎の原爆にも生き延びたのに、こんどはこれだわ！」
- ・ 自衛隊発足の年に公開され、防衛隊（＝自衛隊）がゴジラに砲火を浴びせる。
- ・ 双葉十三郎（映画評論家）「空想を空想として楽しめず、うす暗いやな後味が残る」。

日本の原子力技術受容の初期状況

- ・ ゴジラを倒す究極の兵器としての「オキシゲン・デストロイヤー」
- ・ 最終兵器論
- ・ 「科学はかならず悪用される」。→自らの命を絶つことで科学技術の悪用を防ごうとする芹澤博士。
- ・ 極端ではあるが、ひとつの科学観。科学技術との真摯な向かい合いの姿勢が大衆的にあり得た。



著作権の関係上掲載致しません。

日本の原子力技術受容の初期状況

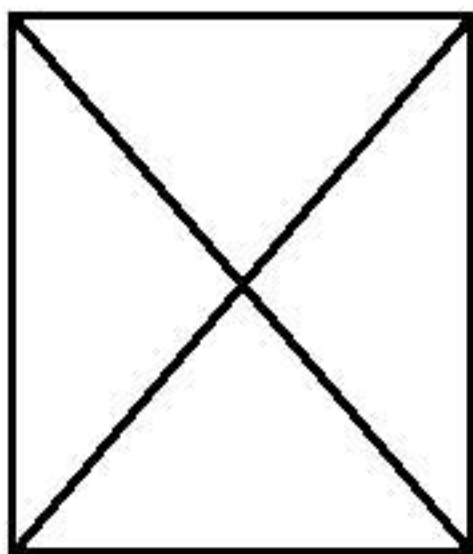
- ・ アトムやゴジラで素朴ながらも示された、大衆社会／文化が科学技術と向き合う姿勢。「科学技術の思想化」の萌芽がその後、消滅する。
- ・ 第五福竜丸事故が生み出したゴジラと、日本全国を席卷した原水爆実験禁止運動という、二つの「科学技術否定」の動き。
- ・ そうした反原子力の世論を一気に覆そうとする『読売新聞』社主・正力松太郎の強引なマスメディア戦略。佐野真一『巨怪伝』文春文庫

日本の原子力技術受容の初期状況

- ・ 「米の原子力平和使節ホブキンス氏、本社で招待」『読売新聞』1955年1月1日 一面
- 1月3日「ウランウムラッシュ。わきかえる福島石川山に学生まで繰り出し宝探し」
- 1月28日「広島に原子炉。建設費二千二百五十万ドル。米下院で緊急提案」
- 2月10日「原子力マーシャルプランとは。無限の電力供給」
- 3月24日「明日では遅すぎる原子力平和利用」

日本の原子力技術受容の初期状況

- ・ 科学技術よりも政治。科学技術庁設立のための科学技術振興対策委員会に出席して「核燃料」をガイネリウムと述べる（正力松太郎）。
- ・ 1955年2月 正力松太郎、衆議院選当選。
- ・ 保守合同
- ・ 1956年1月 正力松太郎 初代原子力委員長に。



著作権の関係上
掲載致しません。

日本の原子力技術受容の初期状況

- ・ ウラン鉱山探索ラッシュ→アメリカから入手したガイガーカウンター片手に全国を行脚する「ウラン爺」こと東善作が話題の人に。
- ・ パイロットになることを夢見てアメリカに渡り、アメリカ空軍に所属する。除隊後、アクロバット飛行のパイロットとして活躍、ロサンゼルスから立川までの横断飛行にも成功。戦後は東京都内でGHQ相手の骨董品業を営んでいたが、米国時代の知人がウラン鉱山発見者として財をなしたことを聞いて自分もウラン鉱山探しを始める（鈴木明『人形峠の残照』中央公論随想81年11月号より）。

日本の原子力技術受容の初期状況

- ・ 人形峠ウラン鉱山の採掘権を取得。
- ・ ウラン鉱業株式会社設立。
- ・ しかし、その後、国内ウラン鉱の品質が国際的には著しく劣ることが分かり、東の一攫千金の夢は費える。
- ・ 71年に動燃に採掘権を譲渡して会社を解散。

日本の原子力技術受容の初期状況

- ・ 東はウラン鉱石を入れた風呂に入り、ウラン鉱石で野菜を育てようとした。
- ・ ほかにもウラン（鉱石入り）茶を飲む習慣などがあつた。
- ・ 原子力に対するあまりに無垢な期待。「経済発展から個人の健康促進まですべてが原子力で実現される」という非科学的な（狂った）信念。
- ・ 科学技術と正しく向かい合えない、現状にまで至る問題。←反原子力の世論を一気に吹き消そうとしたマスメディア過剰利用の功罪。
- ・ 「なんとなく」の「空気」による支配（山本七平）。

科学技術に対して いかなる姿勢を取るべきか

- 先端的な科学技術が宿命的に担う未知性。
- 未知の部分に対して「信じる」姿勢。
- 「狂っている」のは東善作だけではない。

未来のことを分からずに誰もが社会的決定を下そう
としている=賭けている。

信じることしか出来なくても決断しなければならない。

分かっている部分(既知)はどこまでか？
どこから先が信じざるを得ない部分か？
既知 科学技術 可知 不可知
可知と不可知の境界は？



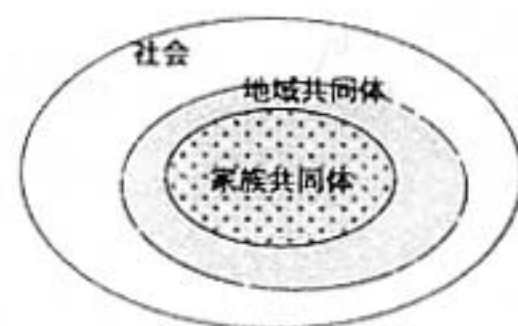
社会と共同体

- 「(公共的な)社会」は「共同体」が同心円的に拡大されたものか？

→修身・齐家・治国・平天下(欲齊其家者、先修其身……)？

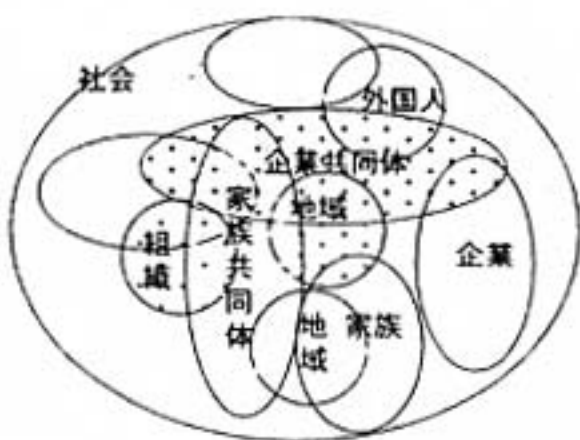
「国=公」という考
え方
国家共同体=公共社会？

共同性と公共性



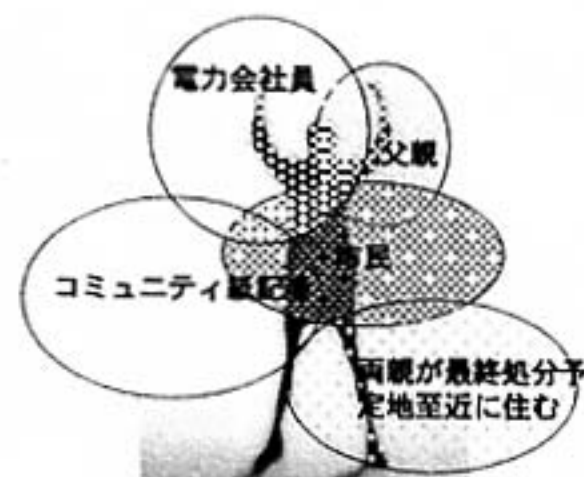
複数の「共同体」を包含する 「社会」

- 価値観を異にする集団・共同体を包含するかたちで現代社会は成立している。
- こうした複雑な構造をなしている社会において、いかに科学技術と向き合うかが(共同体の成員の誰にも)問われている。



価値観の調停

- 科学技術に対する多様な価値観をいかに調停しつつ、受容の着地点を見いだしてゆくか。
- 安全/危険 有用/有害 共同体の複数性……
- 共同体に所属する個人も重層的な存在



未知性を取り入れた制度設計

- 間違いうることを前提として(→可謬主義)あらかじめ制度変更の可能性を制度化しておくこと。
- 間違ったら取り返しがつかない、不可逆的な被害を起こす選択は避ける？ or あるいは自覚的に受け入れる？
- そこまでの判断を求めるのが科学技術。そこまで認識するのが科学技術の思想化(の始まり)。